

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293200018		
法人名	株式会社リエイ		
事業所名	コミュニケア24 浦安いまがわ館		
所在地	浦安市今川2-13-10		
自己評価作成日	令和3年3月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令和3年5月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、その人らしさと地域資源の活用を心掛けて、不適切な介護の廃絶、マナーと介護の質の向上に努めております。
グループホームの介護の利点である、少人数で自由の利点を利用活かし、個々に寄り添った支援と、基本的介護の質にこだわりを持ち、認知症介護のプロとしてBPSDへの対応をいかに利用者本位で行なえるかを常に考えて支援しています。
コロナにより奪われたご家族との時間もライン通話などで埋める試みや、職員が笑顔多く寄り添うことで何とか補えるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「コミュニケア24浦安いまがわ館」は、高級住宅地の中にあり、「地域に溶け込んで、その人らしく、普通の暮らしの継続」を理念に掲げ、入居者の主体性を重視する支援や環境整備を目指している施設である。また、「地域に根差しためくもりの24時間介護」を施設名とし、自治会の加入・地域イベントの参加・施設行事への招待等を通じて、地域で必要とされる施設運営にも取り組んでいる。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、地域との交流活動等は中止しているが、ボランティアや実習生の受け入れ及び、施設見学には対応している。医療面では、協力医療機関による24時間のサポート体制を整備しており、急変時・緊急時の迅速な対応と共に、重度化・終末期の適切な支援に繋げている。また、看護師が定期的に訪問し、健康管理・服薬管理・医療面における相談や対応等も行われており、入居者・家族・職員等の不安解消に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員独自の理念も作成し、当初の理念とともに掲げ直し、地域に溶け込みその人らしい楽しい暮らしを守るための職員倫理としました。	法人理念と施設理念の他、職員独自の理念を掲げ、入居者一人ひとりの個性を大切にしたい、楽しい暮らしの実現に向け取り組んでいる。理念を施設内に掲示していると共に、ホームページに掲載する等、内部及び外部の人達へ周知している。また、研修等を通じて、職員が守るべき倫理として意識浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍においても見学や相談には応じており、地域包括への訪問なども継続してきました。また野外活動ということで庭の花壇の手入れは引き続き社協ボランティアさんのお力を借りて行っています。	地域との繋がりを大切にしており、自治会への加入・地域行事の参加・施設行事の地域住民の招待等を通じて、入居者の地域での暮らしを支援している。今年度は新型コロナ感染防止策のため、外部との交流は中止しているが、ボランティアや看護・介護実習生の受入れ等は引き続き行っている。その他、社会福祉協議会の運営推進員にノミネートする等、地域で必要とされる活動には積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で交流は皆無となってしまいました。地域に貢献すべき施策を練っていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も未開催になり地域交流やコミュニケーションは正直希薄になってしまいました。	市役所職員・地域包括支援センター職員・ボランティア・家族等を構成員として、運営推進会議を開催している。会議では施設の活動報告や意見交換を行い、施設理解の促進を図ると共に、サービスの向上に努めている。昨年4月からは、新型コロナウイルス感染対策の為、会議は未開催となっている。	今年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、定期的に会議開催が出来ない状況が続いていた。今後は、市の定めに応じて、定例開催及び書面でのやり取りに変更する等、更なる施設理解促進と共に、地域との連携強化に取り組んで頂くことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平成29年度から生活保護受給者の方の受入れも開始し、生活保護枠も最大5名の時もあり、より密に介護保険課だけでなく、包括や社会福祉課の方とも連携を取るようになり協力関係を築いています。	市への報告や相談を随時行うと共に、市職員の来訪もあり、日頃から密な連携を図っている。また、市の介護相談員を受け入れており、外部からの意見や情報を施設サービスの質向上に活かしている。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染対策の為、介護相談員の受け入れは中止している。市とは、電話・メール・FAXを通して、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切なケアの撲滅。危険な芽はすぐに摘み取ることを意識し、禁止行為、三原則、魔の3ロック(+1)など勉強会で繰り返し学ぶ事で、職員も拘束をゼロにする使命を持ち、ケアの質の向上に努め、従事しています。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルを整備すると共に、内部・外部の研修も実施しており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、身体拘束委員会を定期的開催しており、身体拘束をしないケアの実践に努めている。他に、年2回、職員の自己チェックを実施しており、虐待の早期防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新たに職員のストレスチェックも取り入れ、勉強会にて学び、実践的な事例を取り入れながら話し合い、虐待の防止、それに繋がる不適切なケアの廃絶に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業については学ぶだけでなく、まだ利用などの経験はないものの、生活保護の方の受入れに当たり、成年後見人制度も改めて権利擁護の勉強会で触れ、学びました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については重要事項に沿った説明、質問にもお答えし契約を行なっています。料金の改定や加算の変更には書面を以っての通知とその後の電話や直接の口頭での説明も行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回のご家族様向けのアンケートの実施、毎月のお便りでのやり取りとなりました。は毎月、市から派遣された介護相談員の受入れをはコロナにより中止しております。	家族の面会時・電話連絡・運営推進会議を通して、意見や要望を確認している。挙がった意見・要望においては、会議や申し送りや周知・検討を図り、適切な対応に努めている。また、施設発行の「GH便り」や、法人の機関紙「Communit」を入居者家族に送付し、理解促進及び信頼関係構築を図っている。今年度は新型コロナウイルス感染対策の為、オンライン面会での対応と共に、防疫対策徹底しての居室での面会も可能となり、家族との繋がりを大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社には社内提案制度を設けていますし、職員による業務改善委員会も開催されています。	定期的に会議を開催し、職員の意見・要望等を確認している。また、管理者が職員と個別に話をする機会を作っており、個々の思いを把握している。法人が様々な研修の機会を設けており、サービス向上を目指した人材育成に取り組んでいる。今年度は新型コロナウイルス感染対策の為、オンライン会議やリモート研修で対応している。	職員アンケートの中で、多数の職員が人員不足を事業所の課題として挙げている。今後、人員確保を行い、疲労やストレスの軽減に取り組んで頂くことをに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与テーブルによる評価と、賞与の評価を行なう人事考課を行なっています。会社の声を職員に届けるよりも、現場職員の声を本社に届けることの重要性を意識して取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人差はどうしても出てきてしまいますが、まずは個々の良い部分を伸ばすことで、おのずと弱い部分を本人が自覚するのを待ち、自らが弱点を克服するという意識を高め、そこでの確かな克服方法などについて話し合いを持ち実践しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	RUN伴の交流ラインなどで他事業所の方たちとは連絡を取り合っております。直接交流に関してはコロナにより行えませんでした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時に要望を伺い、生活環境やペースを大切にすることを心掛けると共に、ご本人とご家族との繋がりを重要視して、安心して頂ける生活環境を構築できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いは、複雑かつ図りえぬことであり、これまでの事例などの話を具体的にあげることで分かりやすく、悩みや要望に添えるよう努力することを伝えるようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切な支援を行なう為に、訪問看護やリハビリ、環境を整えるための福祉用具業者との連携なども図っており、緊急での受け入れも対応できるよう常日頃から職員の理解とスキルを高めることに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔を大切に、それぞれが活躍や中心となれるもの、事柄を見つけて生活の中に取り入れられるように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナでなければ、ご家族との外出や行事への参加も促しながら、交流を深めたりできたのですが、現状は終の棲家としての機能も担いながらも、基本理念は在宅復帰であることを念頭に心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ラインのビデオ通話を使つてのオンライン面会を行なったりした。通常であれば家族との時間の支援、面会時間の緩和で夜間の面会も受け付けています。	友人・知人の訪問は自由となっており、馴染みの関係継続に配慮すると共に、家族との外出・外泊も可能で、家族関係継続も支援している。また、地域行事への参加・施設への地域住民の来訪等が行われており、馴染みの人との交流及び新たな関係構築の機会となっている。しかし、昨年4月からは、新型コロナウイルス感染対策の為、地域との交流や地域行事の参加は中止している。現在、家族との関係継続については、オンライン面会の他、居室での面会で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	競い合い、トラブルになることもありますが、それでも強調し合い、笑い合える関係であるように職員が入り込み、支援をする、個々を理解し信頼関係を築く努力を惜しまぬように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	交流がなかなか図れなかったが、文書を送ったりと関係性の継続には努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	睡眠、食事、排泄、保清などは生きるための基本的欲求であるとともに、侵されたくない部分でもあります。本人本位の暮らしを考えるうえで、職員はまずはその基本から考えて、その他の意向に繋がる、広げる努力をしています。	入所前に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認すると共に、他事業所や医療機関から情報を収集しており、詳細な情報把握に努めている。また、日頃から入居者とのコミュニケーションや家族との相談を通して個々の意向や思いを把握しており、本人本位のサービス提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との関わりの中で、発見したことをご家族と共有することで、事実や新しい事柄の把握に繋げています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特に心身状態の変化が懸念される方には個人記録の書式を変更し、状況の把握に努めています。有する力についてもそれを知るための試みを忘れないことに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員の気付きを一つ一つ丁寧に拾い、皆で検討しプランに反映させているつもりです。また、アイデアについても可能な限り迅速に対応し試みしています。	本人・家族の意向を基に、職員間で検討しながら介護計画の作成を行っている。必要に応じて、医師・看護師の意見も取り入れながら状況判断を行っている。定期的に計画の達成状況の確認、評価、見直しを行っており、現状に応じた計画に基づく支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をもとに、より観察が必要な方へは書式を変更したもの、連絡事項は申し送りノートなどを活用し、情報を共有し、それを常に確認しながら申し送りをすることで伝達ミスの廃絶に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活全般を支援するので、介護だけでなく、受診なども対応するのが当たり前であり、里帰りの支援や個別での友人を訪ねる支援なども行なっている。時間帯も関係なく必要に応じて応援が出来るように備えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状はボランティアの受入れのみとなつてしまいましたが、地域で活動している資源の活用と交流の再構築を行ない生活の充実に努めていきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在18名全員が協力医療機関の往診を受けています。入所前からお世話になっている医師の往診の継続や受診などの対応もしています。出来る限り医療面でも希望に添えるように支援しております。	家族の協力や職員の同行により、希望する医療機関の受診を支援している。また、定期的に協力病院の医師による往診が実施されていると共に、必要に応じて訪問歯科が実施されており、適切な医療支援が行われている。緊急時や急変時には、協力病院の医師との連携し、迅速な対応に努めている。また、准看護師資格を所持する介護職員がおり、健康管理・服薬管理・医療面における相談や対応等も行っており、入居者及び家族の安心に繋がっている。その他、訪問リハビリを活用する等、一人ひとりに合わせた医療支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤1名、常勤1名(准看、介護職兼務)がいまがわ館に勤務しており、常に職員との情報の共有を行なっており、クリニックや訪問の看護師とも連絡を取り合っています。受診に関しては情報提供書、看護サマリーのやり取りを行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者のADLの状況など、情報提供書、看護サマリーのやり取りを行なっています。ご家族の許可を得て、情報の公開をしてもらえるように、入院時の手続きにも立会い、お見舞い時や電話で、病状の変化や早期退院に向けての連絡を取り合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にリビングウィルと看取りの同意書を交わすので、看取りの支援についての説明をしています。看取りや医療行為をどこまで行うかによっては療養型の施設等の検討もあるので、往診時にご家族に立ち会って頂き、医師、介護職員とともに本人にとっての最善の支援を検討しています。	重度化及び終末期の対応については、契約時にリビングウィルと看取りの同意書により、本人や家族の意向確認を行っている。急変時や看取りの対応については、医師・看護師・介護職員が連携し、安心で納得の得られる支援方法の検討や統一に取り組んでいる。また、協力医療機関の医師とは、24時間体制で連携を図り、家族の意向や状況の変化に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の訓練を毎年行っており、それに対するマニュアルの整備も行っています。楽しく過ごしながらも有事の際にしっかりと対応できるよう危機意識をしっかりと持ち、常日頃からシミュレーションをしておくことを心掛けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回の避難訓練を実施しています。特に夜間については近隣の協力も必要になりますので、訓練への参加はお願いはしていますが、参加には至っていません。しかしながら火事だと叫ぶ訓練は行っており、隣人にもお話しはしています。	スプリンクラー・火災報知機・自動通報器を設置する等、緊急時・災害時における消防設備が整っていると共に、年3回、消防避難訓練を実施している。訓練は、夜間想定訓練・消火器訓練等を実施しており、状況に応じた避難方法の確認を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心掛けないといけないことであり、介護者本位になってしまわないように、マナーインストラクターを中心に日々の介護の質を確認しています。また勉強会や定例会でも学びや確認を行なっています。	プライバシー・接遇マニュアル等を整備すると共に、研修・会議を通じて職員の周知・理解促進を図っている。入浴や排泄等においては、羞恥心に配慮した支援を心がける等、入居者の気持ちを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の食事のメニューや個人の意見を尊重したレクリエーションを開催したりしていません。特に誕生日のメニューはご本人に食べたいメニューを聞いたり、好きな食材や故郷の味を意識して作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	残念ながら、過ごす場所が館内には居室か食堂かと選択の余地が少ない中でも、本人のペースを重視して寄り添い支援することを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや保清には気を配っています。隔月に1回の理美容では、パーマや毛染めを行なう方もいらっしゃいます。また、ご自分でマニキュアやお化粧をする方もいらっしゃるの、洗顔時にはメイク落としなどの使用を促しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー決めから買い物、調理に関して有している力や楽しみを広げるために、かまどを使用した羽釜でのご飯炊きや、炭火調理などを行ったり、ホットプレートの使用など楽しみながら美味しく食べる支援を行なっています。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付けを共同で行っていると共に、食材の購入や献立の作成は、職員が行っており、入居者の希望・身体状況・嗜好・旬の食材を取り入れる等、状況に応じた食事提供が行われている。定期的に行事食・誕生会等を企画・実施し、一人ひとりの嗜好や身体状況に配慮しながら、調理方法・盛り付け・提供方法等に工夫を凝らし、食に対する様々な楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	補食も用意したり、時間を問わずに食べたい物を極力提供するなど支援しています。夜起きていれば小腹も減るので、夜食を提供したり、朝はパンでもご飯でも食べれる様に工夫したりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせ、歯ブラシやスポンジ、口腔用のウェットティッシュを使用したりと工夫して口腔ケアに努めています。デンタルの往診を受けている際にも口腔ケアの方法などについてアドバイスを得るようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、排泄がトイレで行なわれたのか、失禁だったのかをチェックして、排泄間隔を考慮した誘導を行ない、トイレで気持ち良く排泄できる様に努めています。	個々の排泄チェックリストを活用して、一人ひとりの排泄状況及びパターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にて排泄の自立を支援している。また、水分チェック表の活用・看護職員との連携等、適切な排泄習慣の確保にも努めている。居室にトイレ・洗面台が設置されており、入居者自身が気兼ねなく使用することが可能となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などの運動と共に、摂取量のチェックや、ヨーグルト、牛乳などの乳製品、ヤクルトを定期購入しているのでそちらの提供など出来る限り便秘の予防を図りつつ、医療面での薬の使用も含めて便秘の解消に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間を問わず、入浴の申し出に答えられるようにしています。午前中に入りたい方にはその時間帯に声掛けをしたり誘っています。ヒートショック対策や入浴剤の使用など、安全、安楽に対しても気を付けています。	入居者の希望に応じて、回数や時間等を調整しながら、適切な入浴の機会を確保している。必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。また、同姓職員が個別に介助を行う等、入居者の心情に配慮した入浴を支援している。1階の浴室にリフトを設置しており、一人ひとりの身体状況に合わせた入浴が可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動も含めて、個々の安眠を考えている。昼夜逆転など一定の生活リズムを保ちつつもご本人のペースを守り支援を心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の変化をしっかりと観察し、医師、看護師、薬剤師への報告で、必要最低限の薬で済むように心掛けている。食事などについても効果に影響のある食品は避けるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事においては、出来ることをただお手伝い頂くのではなく、気持ち良く行って頂けるようなお願いと、感謝を表すことを大切にしています。体操はカラオケ機器を利用したものが好評です。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにより散歩だけになってしまっていますが、通常は散歩だけでなく、ちょっとした買い物をして頂く事で、目的のある散歩にしたり、家族旅行の支援や、家族行事の参加において、送迎や補助などの支援も行なっています。	日頃から、散歩・買い物・ドライブ等を行っていると共に、お花見等の季節に応じた外出活動も実施する等、入居者の楽しみとなっている。また、家族旅行時の支援や家族行事開催時の送迎や補助等、家族との絆を大切にしている。しかし、昨年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、ドライブや敷地内での散歩や活動により、外での楽しみを支援している。また、節分・ひな祭り・敬老会・クリスマス・誕生会等、施設内でのレクリエーションの充実を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理することで安心に繋がるような方には少額であるが自己管理をして頂いており、その他の方にも買い物の際に支払いを行なって頂くような支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ラインでのやり取りを導入し、ご本人の様子などもビデオ通話を利用し、やり取りができるようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花が好きな方が多いので、お花を買いに行き、生けていただくこと、テーブルに花があるだけでも雰囲気良くなったりすることを意識しています。トイレなどは気持ち良く使用できるように、清掃もこまめに行なう様にしています。スペースが狭いのでもう少し整理整頓ができれば良いと考えています。	元社員寮を活用した施設であり、施設内はバリアフリーとなっており、明るく家庭的な空間作りがなされている。施設の共有スペースには、椅子・テーブル・ソファ等が設置されており、自由にくつろげる環境整備がなされている。また、カラオケ機を利用し、カラオケや体操を楽しむ等、入居者へ楽しみ事の提供を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中で、玄関前のソファや天気の良い日には庭先のベンチなどで過ごす方もいらっしゃいます。手を繋いで庭先に出て花を見たり空を眺めたり、お茶を飲むなどゆったりと過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置や、クッション性のある床材、保護材などの使用で怪我をしない様に配慮している。また、仏壇を持ちこんだり、冷蔵庫などがある方もいらっしゃいます。職員も電源コードの配置など危険を考慮して安心安全な落ち着ける空間となるように工夫をしています。	入居者・家族が馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く生活できるよう配慮している。また、寝具の選択やテレビの持ち込みも可能となっており、入居者の生活歴や趣味に応じた居室となっている。各居室に十分な収納スペース・トイレ・洗面台・鍵が設置されており、入居者のプライバシーに配慮すると共に、入居者個々のペースで安心・快適に過ごせる設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造上、ドアに手を挟む危険がある方、または挟んだことのある方には、ドアに防護材を装着しています。ベットや床にクッション性のある素材を付けたりして工夫しています。		